

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
藤本哲史

狭山・総学習会

三者協議をすすめて、無罪を勝ちとろう

狭山第3次再審闘争勝利 和歌山県総学習会

狭山事件が発生して今年で54年を迎えた今年、和歌山県で「狭山第3次再審勝利和歌山県総学習会」を9月9日、和歌山県勤労福祉会館・プラザホールでひらき、県共闘会議、実行委員会ははじめ約60人が参加した。

和歌山では例年、毎月23日を狭山デーとして「街頭宣伝」にとりくみ、夏の期間を「狭山闘争月間」と定め、各地域や職場で学習会や集会にとりくんできた。今年はずっと、三者協議でこれまで188点の証拠開示がされ、そのなかから「三物証」をはじめは石川さんの無実をしめす新証拠が次々と発見されて、石川さんの無実はさらに明らかにされている。しかし、再審

の扉は重く閉ざされたまま、この際、開示された新証拠について学習を深め、狭山第三次再審闘争勝利に向けて一層の前進をはかるために「総学習会」をひらいた。

集会では、池田清郎・狭山闘争本部部長の司会ではじまり、藤本哲史・執行委員長は「54年が経過し、三者協議を重ねているが再審につなげていない。狭山事件は、部落への予断と偏見

が根底にあることを忘れて、一日も早く再審の扉をあけよう」とあいさつをした。つづいて、小林茂・県共闘会議議長から「1975年に中央共闘会議が結成され、翌年の76年、「部落の解放なくして労働者の解放はない!」の解放は

なとりくみをおこなっている」とあいさつがあった。その後、宮本修作・書記長が基調提案をおこない、情勢を報告するとともに高裁・高検への要請ハガキをはじめ具体的な行動が提起され、参加者全員で確認した。

学習会には「狭山再審の現状と課題」と題し、中北龍太郎・狭山事件再審弁護団事務局長より、①えん罪を生んだ差別調査と計画的な証拠づくり、②石川さんは脅迫状を書けないこと、③開示された証拠によって

明らかとなった取調べテープから作られた自白であること、④発見された万年筆は被害者のものではないことが証拠資料や鑑定について説明され、さらに犯人しか知らない「秘密の暴露」は偽物であることなどが詳細に説明された。そして、第3次再審請求の課題については、刑事司法改革とも大きくかわる。人権侵害をなくすためにも、取調べの全過程の可視化と自白中心の捜査と裁判の是正が必要であることが語られた。90分間の学習であったが、参加者全員で、あらためて狭山事件の真実と再審の実現に向けた方向を確認した。

◆各団体から決意表明 つづいて3人から活動報告 (4面へつづく)

日本政府は「別の道が...」と参加していないが、いまだに「別の道」を示そうとしていない▼核兵器廃絶にむけ「核拡散防止条約」が核保有国をはじめ多くの国で批准されているが、「もってしまえばこっちのモノ」というのが現状だ。「北」の脅威にたいして「わが国も核を」という声が韓国に広まり、日本国内でもそうした主張は皆無ではない▼先日の米国の銃乱射事件をみて「銃所持を禁止すべき」との圧倒的な世論。じゃあなぜ「核」は、そうならないのか▼話がかわるが、また映画「猿の惑星」の続編が公開される。初期の頃の映画で「サルはサルを殺さない」というセリフが印象に残っている。「サルはサルを殺さない」、じゃあ私たち人間はどうなんだろうか...



いつわりであった「秘密の暴露」を説明する 中北弁護士

狭山第3次再審勝利 和歌山県 総学習会



結成以降、狭山事件にとりくんできたことを報告する 小林茂・県共闘会議議長



磯崎美幸さん



阪井達夫・湯浅町共闘会議議長



松本貞次・執行副委員長



松本吉弘・平井支部副支部長

頑健

今年のノーベル平和賞に、日本の被爆者団体も連けいしている国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」が選ばれた。受賞会見で「力強い証言と惜しみない活動をしてきた広島と長崎を生き抜いた生生存者、いわゆるヒバクシャと世界中でおこなわれてきた核実験の犠牲者への贈り物でもある」との言葉を述べた。また、先の国連で成立した「核兵器禁止条約」に参加しない日本政府を訴えてきた被爆者にたいする裏切り」と改めて条約への参加を促した。しかし、日本政府は「別の道が...」と参加していないが、いまだに「別の道」を示そうとしていない▼核兵器廃絶にむけ「核拡散防止条約」が核保有国をはじめ多くの国で批准されているが、「もってしまえばこっちのモノ」というのが現状だ。「北」の脅威にたいして「わが国も核を」という声が韓国に広まり、日本国内でもそうした主張は皆無ではない▼先日の米国の銃乱射事件をみて「銃所持を禁止すべき」との圧倒的な世論。じゃあなぜ「核」は、そうならないのか▼話がかわるが、また映画「猿の惑星」の続編が公開される。初期の頃の映画で「サルはサルを殺さない」というセリフが印象に残っている。「サルはサルを殺さない」、じゃあ私たち人間はどうなんだろうか...